

# 荒木 敏夫教授 履歴・業績



# 荒木 敏夫 教授 履歴・業績

## 履 歴

1946年 8月 東京（青梅市）生まれ

### [学歴]

1969年 4月 早稲田大学教育学部社会科地理歴史専修 卒業

1972年 3月 早稲田大学文学部大学院 文学研究科史学専攻（修士課程）修了

1975年 7月 東京都立大学人文学部大学院 人文科学研究科史学専攻（博士課程）  
中退

### [職歴]

1975年 7月 愛知教育大学教育学部助手

1974年 4月 愛知大学文学部 非常勤講師（～1979年 3月）

1977年 4月 愛知教育大学講師

1978年 4月 愛知教育大学助教授

1980年 4月 名古屋大学教養学部 非常勤講師（～1981年 3月）

1986年10月 神戸大学文学部 集中講義

1987年 4月 専修大学文学部教授 現在に至る

1988年 4月 国学院大学文学部 非常勤講師（～1989年 3月）

1992年 4月 國學院大学文学部 非常勤講師（～1993年 3月）

1994年 4月 アメリカ ニューヨーク州イサカ コーネル大学 客員研究員  
（Visiting Fellow）（～1995年 3月）

1997年 2月 静岡大学人文学部 集中講義

1999年11月 神戸大学文学部 集中講義

2002年 9月 専修大学文学部長 専修大学理事・同評議員（～2006年 8月）

2007年9月 専修大学副学長 専修大学理事・同評議員（～2010年8月）  
2008年3月 フランス パリ市 国立高等研究院(Ecole Pratique-des Hautes Etudes)

**[社会活動]**

愛知県 岡崎市市史編纂委員会 編集委員，古代編執筆委員（1977年6月～1991年3月）  
愛知県 刈谷市市史編纂委員会 編集委員，古代編執筆委員（1986年4月～1990年3月）  
静岡県 静岡県史古代史部会 専門委員，古代編執筆委員（1985年4月～1997年3月）  
埼玉県 上福岡市市史編纂委員会 編集委員 古代編執筆委員（1991年4月～2004年3月）  
文部科学省 大学共同利用機関法人分科会 第1期専門委員（2005年04～2007年03）  
国立歴史民俗博物館運営委員会 委員（2008年04～2016年03）  
大学共同利用機関法人 人間文化機構教育研究評議会 委員（2016年04～現在に至る）

**[専門]**

日本史（日本古代史）  
担当科目 学部：歴史学入門ゼミナール（1年），日本史概説Ⅰ・Ⅱ，歴史資料研究法，日本古代の王権と国家Ⅰ・Ⅱ（日本史特講），ゼミナールⅡ・Ⅲ・Ⅳ  
大学院：博士前期課程－講義・演習，博士後期課程－講義・演習

業 績

**[著書]**

『日本古代の皇太子』吉川弘文館，1985年10月

- 『可能性としての女帝』青木書店，1999年5月
- 『日本の女性天皇—十代八人の知られざる素顔』主婦と生活社，2003年3月
- 『日本古代王権の研究』吉川弘文館，2006年6月
- 『日本の女性天皇』（小学館文庫版552）小学館，2006年9月
- 『古代天皇家の婚姻戦略』吉川弘文館，2013年1月
- 『日本古代の王権』敬文舎，2013年5月
- 『日本の女性天皇』（小学館文庫 電子書籍版）小学館，2014年9月
- 『古代日本の勝者と敗者』（敗者の日本史4）吉川弘文館，2014年10月

### 【論文】

- 「タネ島と造籍」『古代研究』第3号，早稲田古代研究会，1972年9月
- 「聖徳太子研究批判のための覚え書」『歴史学研究』394号，1973年3月
- 「東宮機構の研究」『古代研究』第4号，早稲田古代研究会，1973年7月
- 「初期荘園研究に関する若干の整理」『第1回 古代史サマーセミナーの記録』，1973年11月
- 「大兄制」覚え書1』『民衆史研究会会報』第1号，民衆史研究会，1973年11月
- 「東宮機構の成立と皇子宫—皇子宫の退転過程の検討を中心として」『原始古代社会研究』1，校倉書房，1974年8月
- 「8・9世紀の在地社会の構造と人民—律令制下の土地占有の具体化によせて」歴史学研究会1974年度大会 12，1974年12月
- 「律令制下の皇太子制」『日本史研究』177号，1977年5月
- 「平安末期の農事慣行—顕昭「袖中抄」の「たづら」の項の紹介」『歴史評論』331号，1977年11月
- 「木簡と官衙遺跡について」『文化財を守るために』第17・18号合併号，文化財保存全国協議会，1977年12月
- 「東海の富豪と交通路」『地方文化の日本史第2巻 古代文化と地方』文一総合出版，1978年2月
- 「古代渥美郡の木簡史料と地域史研究」『あいち歴史教育』第5号，愛知県歴史地理教育協議会，1979年4月

- 「三河古代の駅制—宮地駅家の位置比定」『岡崎市史研究』第2号, 岡崎市教育委員会, 1980年2月
- 「平安時代の落穂拾い慣行と稲刈り労働」『古代天皇制と社会構造』校倉書房, 1980年3月
- 「伊場の祭祀と木簡・木製品」『伊場木簡の研究』東京堂出版, 1981年9月
- 「杉本判決と教員の研修権」『歴史学研究』508号, 1982年9月
- 「矢作川川床遺跡採集の墨書土器」『岡崎市史研究』第5号, 岡崎市教育委員会, 1983年2月
- 「郡府 墨書小考—矢作川河床遺跡渡A地区出土の墨書土器」『岡崎市史研究』第6号, 岡崎市教育委員会, 1984年3月
- 「易田小論」『律令制と古代社会』東京堂出版, 1984年9月
- 「古代伊予の駅家と津」『財団法人13 奈良時代の伊予』愛媛県文化振興財団, 1985年3月
- 「皇子の祭祀と経済」『東アジアの古代文化』第48号, 大和書房, 1986年7月
- 「皇太子と天皇」『現代のエスプリ別冊 天皇制の原像』至文堂, 1986年10月
- 「古代国家と民間祭祀」『歴史学研究増刊号』青木書店, 1986年10月
- 「東の海つ道と伊良湖」『静岡県史研究』第3号, 静岡県教育委員会, 1987年3月
- 「日本古代の王権と女帝 その1—研究史の整理と再検討の視角」, 『人文科学年報』第18号, 専修大学人文科学研究所, 1988年3月
- 「矢作川河床遺跡採集の「驛」墨書」『岡崎市史研究』第10号, 岡崎市教育委員会, 1988年3月
- 『刈谷市史第1巻 原始・古代・中世 (担当 古代)』刈谷市, 1989年3月
- 「奈良の都の繁栄はどのようにしてもたらされたのか—律令制下の天皇・貴族と民衆」歴史教育協議会編『日本歴史と天皇』, 大月書店, 1989年7月
- 「皇子への挽歌—舍人献上歌の背景」『別冊歴史読本 野望の古代争乱シリーズ 謎の歌集「万葉集」』新人物往来社, 1990年7月
- 「なぜ女帝が即位したのか」『争点 日本の歴史2 古代編I』新人物往来社, 1990年10月
- 「律令制と古代社会—古代史学の論点と成果をめぐって」『人民の歴史学』第108

号，1991年6月

「東への海つ道と陸つ道」『海と列島の文化 8 伊勢と熊野の海』小学館，1991年8月

「古代の祭りと遊び」『日本村落史講座第6巻 生活1』雄山閣出版，1991年11月

「聖徳太子は何故即位できなかつたのか」『新視点 日本の歴史 巻1 古代』，新人物往来社，1992年3月

『100問100答 日本の歴史』原始・古代（「万葉仮名は誰が発明したか」・「稗田阿礼はどんな方法で『古事記』を暗唱したのか」・「貴族の子弟は受験勉強をしたのか」・「平安時代に幼い天皇が多いのはなぜか」），河出書房新社，1992年11月

「仏教の展開と寺院の造営」『新版古代の日本 7巻中部』角川書店，1993年1月

「大友皇子の即位問題」『法廷に立つ歴史学—家永教科書論争と歴史学の現在』大月書店，1993年5月

「日本古代の王権と分業・技術に関する覚え書—6・7世紀を中心として」『専修史学』第26号，1994年5月

「日本古代王権の婚姻特征」『走向国際化的日本：从本重的視角看』天津人民出版社，1995年3月

「即位儀礼と葬送儀礼—古代を中心として」『講座 前近代の天皇制 4巻』，青木書店，1995年5月

「日本古代の皇太子と葬礼—仮寧令無服殤条との関連を中心として」『専修史学』第27号，1995年5月

「日本古代王权的婚姻特质」『日本學 第5輯』北京大学出版社，1995年6月

「藤原顕長の埋納経—綾瀬市宮久保遺跡出土の経筒外容器片に関連して」『専修考古学』6号，1996年10月

「王権論の現在—日本古代を中心として」『歴史評論』564号，1997年05月

「則天武后とアジアの女帝」『シニカ』第117号，大修館書房，1999年11月

「古代の女帝—新しい研究の地平」『日本史研究最前線』新人物往来社，2000年5月

「鳥羽院政下の女帝擁立案—八条院障子」『歴史と旅』289号，秋田書店，2001年9月

- 「日本古代の王権・国家と社会」『歴史評論』618号, 2001年10月
- 「上宮王家と橘大郎女—日本古代の系譜意識とその基盤」『専修大学人文科学年報』32号, 2002年3月
- 「美福門院藤原得子・暲子内親王の熊野詣—鳥羽院政期の王位継承の暗闘」『専修大学人文科学研究所月報』198号, 2002年3月
- 「古代の政治権力と女性」『女性研究における日仏比較』日仏女性学会, 2002年7月
- 「皇極女帝と祈雨儀礼」『日本全国 古墳学入門』学生社, 2003年3月
- 「女帝研究の視角と課題」『東アジアの古代文化』119号, 大和書房, 2004年4月
- 「女帝研究と教科書叙述」『歴史地理教育』671号, 2004年7月
- 「倭国・東アジアと古代日本」『朝日選書780 遣唐使の見た中国と日本—新発見「井真成墓誌」から何がわかるか』朝日新聞社, 2005年7月
- 「古代の皇親と親王・内親王」『歴史と地理 日本史の研究』213号, 山川出版社, 2006年6月
- 「王位継承と女帝」『東アジアの古代文化』128号, 大和書房, 2006年8月
- 「日本古代王権と婚姻」『古事記年報』50号, 古事記学会, 2007年1月
- 「日本古代の王権構造—非常時の場合」『専修人文論集』第80号, 2007年3月
- 「古代の政治権力と女性」『フランスから見る日本ジェンダー史』新曜社, 2007年5月
- 「ミコとヒメミコの古代史」『明日香風』104号, 2007年10月
- 「古代東アジア世界と留学生—課題の所在 その1」『東アジア世界史研究センター年報』1号, 2008年3月
- 「古代の苑池と庭園」『東アジアの古代文化』137号, 2009年1月
- 「浜松市伊場遺跡と地域史研究」『文化遺産と現代』同成社, 2009年6月
- 「三河の国造制—穂国造と東三河」『馬越長火塚古墳群』(豊橋市埋蔵文化財調査報告書第120集), 豊橋市教育委員会, 2011年9月
- 「神泉苑と御霊会—禁苑の変質とその契機」『専修大学人文科学研究所月報』253号, 専修大学人文科学研究所, 2011年9月
- 「藤原仲麻呂の乱と西三河」『史料から読み解く三河』笠間書院, 2012年3月



「古代の女帝—研究の現状」『歴史読本 特集古代女帝即位の謎』, 新人物往来社, 2012年7月

「日本古代の女帝—研究の現状と方向性」『実教 地歴・公民科資料』第77号, 実教出版, 2013年9月

「古人大兄皇子論」『国立歴史民俗博物館研究報告』179集, 2013年11月

「律令国家と古代山城」『古代山城の成立と鞠智城 (鞠智城シンポジウム2013 成果報告書)』熊本県教育委員会, 2014年3月

『歴史の「常識」をよむ』, 歴史科学協議会編, 東京大学出版会, 2015年1月

「大伴氏の「没落」—氏族研究の陥穽」『歴史地理教育』835号, 2015年6月

「中世の女帝像—『我身にたどる姫君』の女帝の比較分析」『専修人文論集』第99号, 2016年12月

#### [編著]

「日本古代王権の婚姻—婚姻の国際比較の観点から」『ヤマト王権と交流の諸相』名著出版, 1994年12月

#### [共著]

「日本地名資料集成 第1章第1節・第3節」『角川日本地名大辞典 別巻1』角川書店, 1990年11月

「第5章 三河国造と西三河, 第6章 奈良時代の三河, 第7章 平安時代の三河, 別編 岡崎市の墨書土器」『新編岡崎市史巻1 原始・古代』, 岡崎市教育委員会, 1992年3月

『静岡県史通史篇1 原始・古代』静岡県, 1994年3月

『上福岡市史 通史編上巻』上福岡市教育委員会, 2000年3月

#### [共編著]

『静岡県史資料編4 古代』, 静岡県, 1989年3月

『上福岡市史 資料編2: 古代・中世・近世—』(担当—I 古代) 上福岡市教育委員会, 1997年7月

『日本史のエッセンス—歴史が物語るもの』（担当—古代）有斐閣，1997年11月  
『静岡県の歴史』（担当—古代）山川出版社，1998年7月

**【書評】**

米田雄介著『郡司の研究』『歴史評論』317号，1976年9月  
直木孝次郎・小笠原好彦編著『クラと古代王権』『ヒストリア』134号，1992年3月  
菊地康明編『律令制祭祀論考』『日本歴史』534号，1992年11月  
勝浦令子著『孝謙天皇・称徳天皇』『歴史評論』796号，2016年8月  
門脇禎二著『大化改新論—その前史の研究』『歴史学研究』363，1970年8月  
門脇禎二著『飛鳥—その古代史と風土』『歴史評論』249号，1971年5月

**【その他】**

「1976年度 回顧と展望」（日本古代）『史学雑誌』86-6，1977年5月  
学会報告「8・9世紀の在地社会の構造と人民」歴史学研究会 大会報告，1974年5月  
学会報告「古代国家と民間祭祀」歴史学研究会大会報告，1986年10月